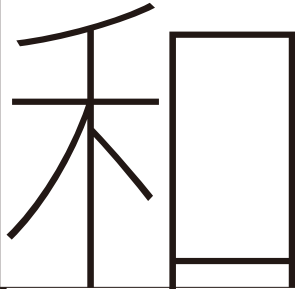




Science For A Better Life

日本のバイエル
企業広報誌
Corporate Newsletter
of Bayer in Japan



Harmony

No. 92
Nov. 2014

>>>02

オープン
イノベーション
センター発足
Launch of the ICJ

>>>04

すでに動き出した
ICJの取り組みと精鋭たち

>>>06

活動4年目を迎えた
「生きるの教室」



>>>09

日本癌治療学会でも
取り上げられた
「生きるの教室」

>>>10

バイエル・キャラクター
徹底解剖

>>>14

わくわく実験びっくり箱2014

>>>16

「見たい!知りたいたい!
目のかがく教室」開催

>>>17

Bayer Topics





オープンイノベーションセンター発足

バイエルのグローバルな研究開発に、日本発の優れた研究や技術をつないでいきたい。

Launch of the ICJ: Linking Bayer's Global R&D with Japan's Outstanding Research and Technologies

2014年6月1日、バイエル薬品の開発本部内に新組織オープンイノベーションセンターが発足し、準備期間を経て9月1日に本格稼働を開始した。同センターの役割は、日本国内の大学やベンチャー企業の優れた研究や技術を探索し、バイエルのグローバルな研究開発と融合させて、革新的な創薬に貢献することである。高橋俊一センター長に、同センターの役割やビジョンを聞いた。

Open Innovation Center Japan (ICJ), a new team formed in Bayer Yakuhin's Product Development unit, began full-scale operation on September 1 to contribute to the development of new innovative drugs.



バイエル薬品株式会社
オープンイノベーションセンター
センター長 理学博士

高橋俊一

Shunichi Takahashi (PhD)
Head of Open Innovation Center Japan
Bayer Yakuhin

2001年日本シエリング入社。同年より米国子会社パーレックス・バイオサイエンス循環器研究部に出向、免疫研究部を経て2007年に帰国。同年日本シエリングのバイエル薬品との経営統合後、神戸リサーチセンター再生医療研究本部主幹研究員、開発本部プロジェクトマネジメン循環器領域マネジャー、メディカルアフェアーズプライマリーケア部長などを経て、2014年6月にオープンイノベーションセンターのセンター長に就任。理学博士。

—オープンイノベーションセンターが発足した背景を教えてください。

オープンイノベーションセンター（以下、ICJ）が発足した背景には、2つの理由があると思っています。

まず、私たちは常に革新的な薬を提供することを目指していますが、そのために必要な知識や技術は高度に専門化・細分化され、一企業だけで広範囲にフォローするのが難しくなってきたことがあります。例えば、がんの治療薬を考えても、ひと言で言えば、がんまたはがん細胞が薬の標的ですが、実際の標的は細胞表面の受容体をはじめ、細胞内のたんぱく質や遺伝子複製など多岐にわたります。また薬そのものも、従来の化学合成化合物に加えてタンパク質、抗体薬などさまざまです。さらに、除放製剤の技術やドラッグ

—What's the background to the ICJ's establishment?

It's the product of two trends. First, today's pharma companies need highly specialized knowledge and technology in order to produce a constant stream of innovative drugs, but it is hard for a single company to go at it alone across many research fields. For instance, innovative cancer drug research needs to explore many different potential targets, such as receptors on the cancer cell surface, and the proteins and gene replication processes inside the cell. As another example, the range of drug therapies is expanding beyond chemical compounds to include protein and antibody therapies. So, it's very important to combine our own drug discovery expertise with the cutting-edge research and technologies of universities and startups. In fact, more than 60% of a big pharma company's pipeline derives from outside sources or joint research.

The second trend is that universities are being increasingly called upon to convert their research results into benefits for society, so many of them are seeking opportunities to partner with businesses to fulfill this duty, as can be seen in their creation of offices for promoting translational research and collaboration with industry.

Since these two trends have emerged simultaneously, the spotlight is turning to open innovation and the possibilities it offers. The ICJ was established to further bring open innovation into Bayer's drug discovery efforts.

—What challenges will the ICJ take up?

We will work to promote collaboration with external partners based on three pillars. The first is to pursue comprehensive partnerships with mainly universities. This collaboration will aim to discover new drug candidates in Bayer's focus areas—cardiology, oncology, hematology, women's health, and ophthalmology—by fostering the partners' emerging research and by sharing expertise and knowledge with each other. Rather than focus on individual projects and technologies, however, we will search for partners that Bayer can trust. Also, we will spread the message that Bayer is an excellent partner.

This past September 24, Bayer Health Care and Kyoto University's Office of Society-Academia Collaboration for Innovation (KU-SACI) entered into a comprehensive partnership, and the ICJ is tasked

グデリバリーの技術など、薬の開発研究に必要な技術は非常に広範囲にわたります。革新的な薬を生み出すには、自社の技術や知識だけにこだわらず、大学やベンチャー企業などが持っている最先端の研究や技術を理解し、自社技術と融合させていくことが非常に重要になってきたのではないのでしょうか。実際に、いわゆるメガファーマといわれる製薬会社の開発のパイプラインを見ても、60%以上が自社以外に由来、もしくは他社と共同で開発しているとのデータも出ています。

一方で、大学側も基礎研究だけにとどまらず、研究成果が実際の社会で利用されることが求められるようになりました。そのために企業と提携する機会が多くなってきています。多くの大学でトランスレーショナルリサーチや産学連携のための部門がつけられていることにも表れています。独立行政法人に変わったことも大きく影響しているのだと思います。

この2つの流れが同時期に生まれたことにより、オープンイノベーションが注目され始めているのです。

—ICJでは今後、どのような課題に取り組んでいく予定ですか？

主に3つの柱で外部とのコラボレーションをつないでいきたいと考えています。

第1の柱は、主に大学を対象とした包括的なパートナーシップです。事業化にはまだ遠い早期の研究や、お互いの技術や知識を使って新しい創薬につながるためのコラボレーションですね。対象とする領域は、バイエルの研究部門がターゲットとしている循環器、腫瘍、血液、婦人科、眼科などの疾患領域。個別の研究や技術を探すとより信頼できるパートナーを探すことを狙いとした活動です。バイエルがパートナーとして適していることを知っていただく活動も重要です。

2014年9月24日に、ドイツのバイエルヘルスケア社と京都大学産官学連携本部が包括的提携契約を交わしました(P4参照)。日本では、ICJがこの契約を推進する窓口を担っていくこととなります。「包括的提携」と名付けられているとおり、特定の研究課題が決まっているのではなく、これから共同研究を探していくこととなります。最初に課題ありきではなく、私たちが「フレームワーク

コントラクト」と言うところの、枠組みづくりです。

もちろん、包括的な提携というレベルではなく、大学との個別具体的なテーマに特定したコラボレーションにも積極的に取り組んでいきます。これがいわば、第2の柱です。

第3の柱は、大学だけでなくバイオベンチャーやスタートアップ企業の研究内容や技術を評価して、資金や研究環境をサポートするインキュベーターとしての活動です。それを通して、さまざまな方面にネットワークが広がればよいと考えています。活動のひとつである研究助成プログラム「Grants4Targets」も、この第3のレベルに該当します(P4参照)。

—バイエルにおける、さらには、日本におけるICJの存在意義は何でしょうか？

ICJが発足してまだ数カ月しか経っていませんが、おかげさまで社内外から注目されていると感じています。「オープンイノベーション」を名乗る組織は日本ではまだ少ないからでしょう。何を始めるのかと関心事になっているようです。

もちろん、ICJが発足する前からバイエルでは大学などアカデミアやバイオベンチャーとの共同研究を世界中で実施しています。しかし、日本のさまざまな研究や技術を1カ所で統括的に評価し、共同研究につ

なげる部署はありませんでした。その役割を果たすのが私たちICJです。

幹細胞領域に代表されるように、日本では将来有望な研究や研究者は多く存在します。日本の先進的な研究をICJが探求・評価して、日本でバイエルの多くの研究者にどんどん橋渡ししていきたいですね。そうして生まれた共同研究が、将来の革新的な創薬につながることを願っています。

また、大学を中心とする日本のサイエンティフィックコミュニティとのネットワークを強化することもICJの大きな役割です。可能性を秘めた研究活動を見出し、世の中に役立つ新薬に育て上げるという製薬会社の原点に立ち戻ることにもなります。さらにそれがバイエルのビジネスという範囲にとどまらず、日本のサイエンスの土台づくりの一助となればよいと考えています。

with advancing this alliance. As it is a comprehensive framework agreement, there are no specific research topics already in place, so we will work with KU to explore various avenues and opportunities for joint research.

At the same time, we will carry out the second pillar of our mission, which is to actively promote collaboration on specific research topics with academia.

The third pillar is to function as an incubator by evaluating research by bio ventures and startups and providing promising projects with financial and research environment support. In so doing, we hope to expand our network in many different directions. One of our activities for this pillar is to introduce partners to Bayer's Grants4Targets research grant program.

—What is the ICJ's significance to Bayer and Japan?

Just a few months have passed since the ICJ's launch, but we are already attracting attention both inside and outside the company, possibly because few organizations in Japan have the words "open innovation" in their name. I think people are excited to

see what sorts of things we will do. Of course, Bayer has pursued joint research with academia and bio ventures worldwide since before the ICJ's debut, but there had been no single organization to comprehensively assess Japan's various research projects and technologies to identify opportunities for collaborative research. Now, however, the ICJ is here to perform that role.

Japan has very promising research and scientists, as can be seen in the field of stem cell research. The ICJ will explore and assess Japan's innovative research and actively endeavor to connect it with Bayer's many scientists. It is our hope that the resulting collaboration will eventually lead to the discovery of innovative drugs. And, another important role for us is to strengthen Bayer's network with the Japanese scientific community, particularly universities. In so doing, we can take Bayer back to the roots of the pharma business—meaning identifying research activities with great potential and nurturing them into new drugs that will benefit humankind. We hope that our efforts in this regard will not only support Bayer's business, but also help strengthen the foundation of science in Japan.



すでに動き出したICJの取り組みと5人の精鋭たち

ICJ's Ongoing Activities and Expert Scientists

● バイエルと京都大学 産官学連携本部が2年間の包括的提携契約を締結

Bayer and Kyoto University's Office of Society-Academia Collaboration join forces in 2-year comprehensive partnership

ドイツのバイエルヘルスケア社と京都大学産官学連携本部は、2014年9月24日、2年間の産学連携に関する包括的提携契約を締結した。この提携の目的は、京都大学の研究や産学連携活動を活性化するとともに、京都大学に存在する革新的なアイデアやコンセプトの中から、バイエルの開発パイプラインに結びつくプロジェクトを探索することにある。年3~4回にわたり、共同会議「アゴラ バイエル」を開催し、京都大学の研究者が研究実績をバイエル研究者に直接紹介し議論していく。「アゴラ バイエル」の結果をもとに、具体的な検討に進んだ場合、京都大学産官学連携本部は仲介役として調整を行う。

日本におけるトップクラスのアカデミアである京都大学との提携により、今後、ライセンス契約や共同研究契約に進む案件が出てくることが期待される。



10月16日の東京での記者会見で、バイエルと京都大学の提携の説明が行われた

The partnership, which aims to leverage innovative ideas and concepts present at Kyoto University and identify candidates for collaborative projects that can impact Bayer's pipeline, will hopefully lead to the formation of diverse agreements for licensing and joint research.

● ICJ発足に伴い、日本でも「Grants4Targets」がスタート

Grants4Targets rolled out in Japan with launch of ICJ

バイエルヘルスケア社の研究助成プログラム「Grants4Targets」は、バイエルの注力領域である腫瘍領域、婦人科領域、循環器領域、血液領域、眼科領域における新規標的、バイオマーカーに対する研究を支援し、バイエルの創業に関する専門的知識や技術を提供するためのグローバルプロジェクトだ。2009年5月にスタートし、これまでに1,100を超える応募が寄せられている。内訳はドイツ(約20%)、ドイツ以外のヨーロッパ諸国(約40%)、米国およびアジア(約40%)となっているが、日本からの応募はわずか数件にとどまっていた。

ICJは活動のひとつとして「Grants4Targets」を始めることで、日本の大学などの研究機関やベンチャー企業とのネットワークをさらに広げて、日本国内でのイノベーションへの取り組みを支援していきたいと考えている。

The ICJ's activities include supporting innovation at Japanese universities and startups by putting them in touch with Grants4Targets, Bayer HealthCare's grant program for drug discovery research in cardiology, oncology, and other Bayer focus areas.

「Grants4Targets」の探索領域

腫瘍領域	増殖抑制、生存シグナル伝達、転写・クロマチン調節、細胞周期調節、腫瘍代謝、低酸素、免疫療法、抗体-薬物複合体
婦人科領域	子宮内膜症および子宮筋腫
循環器領域	急性冠症候群、虚血性脳卒中、肺高血圧、心房細動、心不全、末梢動脈閉鎖性疾患、急性肺損傷/急性呼吸促迫症候群、心腎症候群、慢性腎疾患
血液領域	血友病、異常ヘモグロビン症、骨髄細胞の末梢血への動員および再生
眼科領域	非滲出型加齢黄斑変性/地図状萎縮、シユタルガルト病

● 9月18日、ICJのWebサイトがオープン

ICJ launched its own website on September 18

ICJは日本の大学などの研究機関に対して積極的にアプローチするとともに、自らの活動を幅広く知ってもらい、コラボレーションの可能性をさらに広げるために、2014年9月18日にWebサイトを開設した。中でも「Grants4Targets」の取り組みについては、初めて日本語で発信し、日本国内からの応募を促進していく。

The ICJ has opened up a website to reach out to potential partners and showcase its various activities.



● ICJの若きサイエンティストたちに聞く

An intro to ICJ's young scientists



シニアアライアンスマネジャー／主幹研究員
医師 医学博士

篠田 現

Gen Shinoda (Physician, DMSc)
Senior Alliance Manager/Senior Scientist

私は以前、病院で小児科医として勤務していました。その後、ボストン小児病院の研究所、バイエル薬品開発本部臨床薬理を経て、ICJのシニアアライアンスマネジャーを拝命しました。京都大学出身ということもあり、京都大学との包括的提携契約の窓口は私が担当しています。

ICJの人員は今のところ6名ですので、知的財産や臨床開発をはじめ他部署のエキスパートの方々との協力体制が欠かせません。そのためにも、できたばかりのICJを温かく見守っていただければと思います。



アライアンスマネジャー／主幹研究員

栗原 哲也

Tetsuya Kurihara
Alliance Manager/Senior Scientist

ICJ内での担当は主に、ICJ全体の戦略を立案することと、有望なバイオベンチャー企業を探し出しパートナーシップを結ぶ機会をつくることです。研究助成プログラム「Grants4Targets」も私が主担当です。

ICJに配属になる前の2年ほどは経営企画にて社内のさまざまなプロジェクトに従事し、さらにその前は投資銀行で製薬会社のM&Aに関わってきました。ベンチャーとのパートナーシップは純粋な研究の側面だけでなく、ビジネスの側面から評価することも重要になります。これまでの私の経験をそこに活かしていきたいと考えています。



ビッグデータアナリスト
医学博士

菊池 紀広

Norihiro Kikuchi (DMSc)
Big Data Analyst

前職はITの会社です。そこで、バイオインフォマティクスといって、ゲノムや遺伝子などのデータ解析のコンサルティングやシステム開発に携わっていました。その方面から新薬開発に関わってきたことになります。

ICJで私が取り組んでいくのはビッグデータ解析です。今や、ゲノムのデータや臨床試験のデータ、病院の電子カルテなど、膨大なデータが生まれています。バイエル内はもちろん、外部の組織にも存在するビッグデータの解析を通して創薬に貢献していきたいと思っています。



アライアンスマネジャー／主幹研究員

深尾 太郎

Taro Fukao
Alliance Manager/Senior Scientist

私はICJの東京に所属しており、関東周辺や東日本の大学やそのほかの研究施設に対する窓口を担当しています。以前は開発本部で臨床開発の仕事をしていました。主に関わってきたのは、循環器領域でバイエルの主力製品である経口抗凝固剤「イグザレルト」などです。そのほかには、腎疾患領域も担当しています。

日本の科学者の方々とのつながりを深めて、社内外で存在感を示せるICJにしていきたいですね。



アライアンスマネジャー／主幹研究員

薬剤師 薬学博士

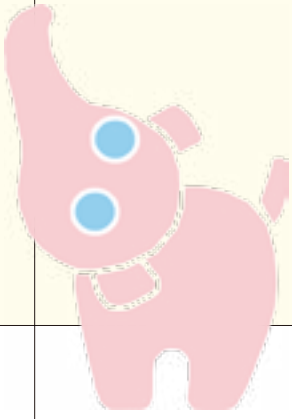
黒田 垂歩

Taruho Kuroda (Pharmacist, DMSc)
Alliance Manager/Senior Scientist

私は16年間、主にがんの基礎研究に携わってきました。うち7年は、ボストンにあるハーバード大学付属のダナ・ファーバー癌研究所で、最先端のがん治療や創薬のプロセスなどについて、貴重な勉強をしてきました。その経験をこれからICJで活かしていきたいと思っています。

今、がんの治療は急速に進歩しつつあり、期待も高まっています。それだけに、ICJの活動を通してがん治療という社会的ニーズに応えていくことが大きな使命だと考えています。





活動4年目を迎えた 「生きるの教室」



— 子どもたちに「がん」に対する正しい知識を伝える
日本のがん死亡率低減を目指して

Ikiru-no-kyoshitsu (School for a Better Life) Now in Its 4th Year of Educating Youths —Seeking to lower Japan’s cancer death rate by giving teens a correct understanding of cancer

「生きるの教室」は、全国の中学2年生に対し「がん」に対する正しい知識や「生きることの尊さ」を伝える日本のバイエルの社会貢献活動である。がん教育に先駆的に取り組む東京大学医学部附属病院の中川恵一先生を講師に迎え、バイエルの社員サポートスタッフが授業補助担当として参加している。

2014年5月には、初めて福島県を訪問し、福島大学附属中学校で開催。県庁関係者や報道関係者にも公開された。

Ikiru-no-kyoshitsu, a CSR program of Bayer in Japan, seeks to instill eighth graders with a correct understanding of cancer and a deeper awareness of the preciousness of life through lectures led by University of Tokyo Hospital’s Dr. Keiichi Nakagawa, a leader in cancer education. The workshop was held last May at a junior high school attached to Fukushima University.

「がん」は知ることによって、リスクを減らせる病気

東京大学医学部附属病院 放射線科准教授／緩和ケア診療部長
中川恵一 先生



日本は世界一がんが多い国です。先進国の中でも、がんで亡くなる方が増えているのは日本だけという状況です。しかし、これほど身近な病気であるはずのがんについて、学校教育の中ではほとんど

教えてきませんでした。

がんは、知識があるかどうかでその後のリスクが大きく変わる病気です。生活習慣に気を付けるだけで、がんにかかるリスクは半分から3分の1くらいまで減らせます。そして、仮にがんになった場合でも検診などで早期に見つけて完治させる、いわゆる二次予防が大切です。がんは怖い病気というイメージがありますが、今や全体で6割近く、早期がんに限れば9割以上が治る時代なのです。

例えば、大腸がんの検査は検便です。そんな簡単な検査を受けておくだけで、大腸がんで命を落とすリスクは、3分の1以下に減らせます。このように、ほんのちょっとした知識と行動で大きくがんは防げるにもかかわらず、定期的ながん検診を受けている人は、日本では2～3割程度なのが現実です。

子どもたちのがんに対する正しい知識や「命の大切さ」を伝える、日本のバイエル100周年記念企画「生きるの教室」は2011年に始まり、全国各地で開催を続けた結果、徐々に認知が広がってきています。そのような草の根運動にうながされる形で、昨年度から文部科学省も外郭団体ががん教育に関する検討委員会を

つくり、今年度は21の都道府県でモデル事業の予算をつけました。そして、今年度からは文部科学省の中でがん教育に関する検討会を立ち上げ、次回の学習指導要領の改訂で、保健体育の教科書に「がん教育」を柱のひとつとして取り上げる方向で検討が始まっています。

これから日本のがん対策は大きく変わっていくでしょう。そういう国の大きな方向転換のきっかけのひとつとなり、大変意義のある活動だと感じています。

今、私が心配しているのは、親世代のことです。これからの子どもたちは、がんのことを習いますが、親はがんについてよく知らない…。ですから「生きるの教室」で学んだ子どもたちを通して、親御さんも逆世代教育としてがんを学び、ご自身の健康を守っていただければと思っています。



Cancer is the top cause of death in Japan, but today more than 90% of all cases detected early can be cured, and changes in lifestyle habits can significantly lower the risk of developing cancer. Ikiru-no-kyoshitsu teaches youths about the importance of cancer prevention and early detection so that they can not only take better care of their health, but also share this vital knowledge with their parents.

全国に広がる開催校

東京都	葛飾区立新小岩中学校
東京都	江戸川区立葛西第二中学校
青森県	おいらせ町立木の下中学校
山口県	周南市立須々万中学校
愛媛県	愛光中学校
東京都	葛飾区立堀切中学校
秋田県	秋田大学教育文化学部附属中学校(後援:秋田県)
京都府	大谷中学校
栃木県	佐野日本大学中等教育学校
大阪府	柏原市立堅下北中学校(後援:大阪府)
神奈川県	鎌倉女学院
埼玉県	入間市立金子中学校
福岡県	飯塚市立穂波西中学校
福島県	福島大学附属中学校(後援:第52回日本癌治療学会学術集会/福島県立医科大学器官制御外科学講座)



「生きる」ということを、真剣に考えるきっかけにしてほしい

「生きるの教室」特別ゲスト 「ひいらぎの会」代表世話人
鈴木牧子 さん



今回、私は特別ゲストとしてがん経験者の立場からお話をさせていただきました。がんを学ぶことは「死」に対する意識にも関連する教育だと思うのです。日本人は、がんについてもそうですが、ネガティブなことを話すのはタブーだという意識があります。家庭でもそれを避けているという光景が見られます。しかし今回は、あえてそこに踏み込んで、子どもたちと一緒に話をしたことに意味があったと感じました。

子どもたちは本当に素直で、真剣に話を聞いてくれて、やはり感受性豊かなこの年頃に「死」やその裏返しとなる「人生を大事に生きること」について意識することは、とても大切な教育だと感じました。

グループワークでは「大切な人をがんで亡くさないために、自分は何ができるか」と



いうテーマで、それぞれが意見を出し合いました。そのなかで「祈る」というキーワードが出たグループがあったのですが、祈るという行為は、相手を心から思いやるということ。そこに思いが行き着いたのには感動しました。これは、宗教を超えた部分での人としての優しさがあふれ出た言葉に聞こえました。普段は受けたことのない授業だったにもかかわらず、活発に意見が交わされ、発表もとても良くまとまっていたし、大成功だったと思います。



To learn about cancer is to think about death, and this subject tends to be avoided in many homes. Ikiru-no-kyoshitsu inspired the students to openly share their thoughts on this topic and how they could protect loved ones from cancer.

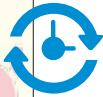
子どもたちの真剣な様子に、がん教育の重要性を再確認

「生きるの教室」後援 第52回日本癌治療学会学術集会/福島県立医科大学器官制御外科学講座
講師 中村 泉 先生



がん教育について何か関われないかと考えていたところ「生きるの教室」の授業を知りました。そこで「ぜひ、福島で」とお願いし、後援という形で協力させていただきました。

今回、初めて中川先生の授業を拝見し、子どもたちの反応が想像以上に真剣であったことに驚きました。やはり、こういった教育は、早い時期から取り組んでいくべきではないかと強く感じました。今、このタイミングで、福島で「生きるの教室」を開催していただけたことに、大変感謝しています。



こんな風に授業は進みます!

「生きるの教室」のタイムスケジュール(110分)

① レクチャー編 >>> ドクター中川による講義

1 生きていることと向き合うためのセッション

・オリジナルムービー「いきるぞう～いのちの河のものがたり」の上映

2 がんと向き合うためのセッション

・がん検診啓発ムービー「がんちゃんの冒険」の上映
・がん経験者の体験談(特別ゲスト) & 中川先生とのトークセッション
・質疑応答

—休憩—

② 個人/グループワーク編

1 個人作業

「想起」・「喪失」・「希望」の3ステップで、大切な人をがんで失わないために自分は何ができるかを書き出す。

2 グループワーク

個人作業をもとに、班になってグループディスカッション

①②の間、社員サポートスタッフは生徒たちのテーブルを回ってフォロー

3 話し合った結果を班ごとに発表

<「生きるの教室」の総括 & 質疑応答>

中川先生による総括と質疑応答

<終了>



「生きるの教室」で上映したムービーは、家で家族と話し合うきっかけにもらえるように、DVDを生徒たちに配布します。

…DVD「いきるぞう～いのちの河のものがたり」

…DVD「がんちゃんの冒険」



クラスの代表生徒を交え、ミニ取材会を開催



「生きるの教室」の終了後、生徒代表から中川先生への感謝の気持ちが伝えられ、引き続き、中川先生や中村先生、特別ゲストの鈴木さん、クラスの代表生徒を交えて、ミニ取材会が開かれた。ミニ取材会では「周りにがんの人がいてどうしたらいいか分からなかったけど、この日学んだことを活かしていきたいと感じた」とか「がんについての意識が変わったので、両親と話し合おうと思った」などの意見が発表された。



「生きるの教室」成果がカタチに…

グループワークの発表コメント!!



免疫力が上がるよう、「笑う」「笑わせる」ように暮らす!

両親を怒らせないように、ストレスを溜めさせないようにする!

がんの知識を深め、患者さんへの思いやりを持つ!

冷蔵庫のビールをノンアルコールに変えてしまう!



家族でがんについて話し合いたい!

タバコを吸わせない!

大切な人ががんにならないように祈る!

今から生活習慣を見直す。肉と魚のローテーション!

などなど…





日本癌治療学会でも取り上げられた

「生きるの教室」 Japan Society of Clinical Oncology Spotlights Ikiru-no-kyoshitsu

「がんの教育・普及啓発」は、今年度見直された厚生労働省の「がん対策推進基本計画(2012年改定版)」にも盛り込まれ、現在、文部科学省の検討会の取り組みとして、医療関係者、教育関係者、患者さん、自治体を中心に、がん教育のあり方について模索が続いている。そんな中、2014年8月30日、横浜で開催された第52回日本癌治療学会学術集会のシンポジウムで、「生きるの教室」が先駆的な実践事例として発表された。

Ikiru-no-kyoshitsu was spotlighted at this year's Japan Society of Clinical Oncology annual meeting as a pioneering endeavor that responds to the MHLW's and MEXT's call for stronger cancer education and awareness raising.

がんを知るだけでなく、命の大切さも学んでほしい

バイエル薬品は2011年より東京大学医学部附属病院の中川恵一先生を講師に迎え、中学生を対象にしたがん教育「生きるの教室」に取り組んできた。これまでに受講した生徒数は、全国各地14校の中学2年生約1,700名。事前・事後アンケート結果では高い学習効果が示されており、学校、保護者、自治体関係者などから数多くの賛同と評価の声が届いている。

授業は堅苦しくせず、楽しく学べるようにと「生きるの教室」

オリジナルムービーや、公益財団法人日本対がん協会制作による「がんちゃんの冒険」や「がんってなに」などの映像教材を使用。実際にかんを経験した方のお話を聞いたり、中川先生との掛け合いを行っている。また、がんと生きることをテーマにしたグループディスカッションを通して、命の大切さを学んでもらうことにも力点を置いて授業を進めている。



東京大学医学部附属病院 放射線科准教授/緩和ケア診療部長
中川恵一 先生

昨年の日本癌治療学会学術集会のパネルディスカッションに「生きるの教室」の授業を受けた女子中学生がパネラーとして参加してくれました。これは前代未聞の画期的なことです。

そのとき、彼女は「中学生は大人が思っているほど幼くありません。がんを学び理解して、防げるも

のなら防ぎたいと考えています」と発言してくれました。また、「この授業をほかの人にも受けてほしい」とも述べていました。今、がん教育を学校の授業に取り入れるための仕組みづくりが急がれていますが、国や都道府県のがん教育の取り組みに、この「生きるの教室」の活動が少しでも参考になればいいと思っています。また、日本のがん教育を牽引してきた「生きるの教室」は、今後もぜひ継続していきたいですね。

「生きるの教室」は、これからのがん教育の模範

「生きるの教室」後援
第52回日本癌治療学会学術集会/
福島県立医科大学器官制御外科学講座
講師 中村 泉 先生



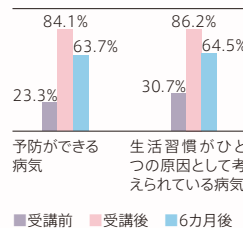
がん教育に対しては、ようやく国も動き出しましたが、誰がやるか、どこでやるかなど、まだまだ方法が確立していません。今、すでに活動を始めているところも、患者会から立ち上げた地域もあれば、地域の行政が立ち上げたところなどさまざま、これから全国での実施を目指して、活動の立ち上げ方や進め方などを議論していく段階だと思います。

そんな中で国に先駆けてがん教育を実践しているのが「生きるの教室」です。これからは医師だけでなく、さらに教師や患者さんたちとのコラボレーションも求められるようになると思います。いずれにしても、まず、がんを知ることがとても重要なこと。「生きるの教室」はがん教育のひとつのモデルケースとして、今後も継続して全国で開催していただきたいものです。

アンケート調査結果発表

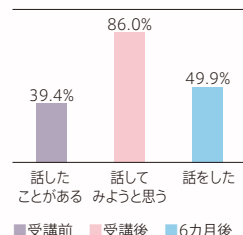
受講後、がんに対するイメージが変化

「生きるの教室」を受講した1,106名の中学生を対象に昨年アンケートを実施したところ、受講前と受講後では、がんに対するイメージや理解、行動が大きく変化していることが判明した。



◎がんに対するイメージ

がんが「予防できる病気」だとイメージしている生徒は、受講前はわずか23.3%。しかし、受講直後は84.1%に上昇。6カ月後も63.7%を維持しており、がんに対するイメージの変化を示している。また、がんと生活習慣の関連性についても、受講後に高い伸びを示し、がんに対する正しい理解が定着している。



◎がんについて、家族で話題にするきっかけを提供

受講直後、がんについて家族と話してみようと思った生徒は、86.0%。6カ月後、実際に話した生徒は、約半数の49.9%に上った。話をした内容は、がんの予防や予防法、がん検診やがんの早期発見について、だった。「生きるの教室」の授業が、生徒たちの家庭での行動にも変化をもたらしている。

バイエル・キャラクター 徹底解剖

新発見! 再確認! キャラクターたちのミッションを学ぼう!

Rediscovering Bayer Yakuhin's Mascots:
A Close-up Look at Their Important Missions



キャラクター選手権も開催!

どんどん投票しよう! 詳しくは13ページを確認

バイエル薬品には、10体を超えるキャラクターが存在することをご存じだろうか。キュートなもの、ユニークなもの、その存在はさまざま。でも、どのキャラクターもバイエルにとって重要な「ミッション」を帯びている。キャラクターたちの特徴を徹底解剖し、その背後にある患者さんの「Better Life」への思いを改めて実感してみよう。

Did you know Bayer Yakuhin has more than ten mascots? They come in different styles—some adorable, some unique—but they all perform vital missions for Bayer. Let's take a look at each character and see how they serve as reminders of the importance of striving to bring a Better Life to patients.

◎バイエル・キャラクターは、単なるキャラクターではない

ビレちゃん、ここパグ君、ネリーちゃんなど…。バイエル薬品には、親しみやすいキャラクターがたくさんいる。すべて、独自に生み出されたオリジナルキャラクターだ。名前や姿はかわいいが、果たすべきミッションは重大。例えば、血友病の子どもたちに勇気を与えるキャラクター、月経関連疾患啓発マスコットなど、バイエル薬品が社会に果たすべき役割を表現している。小さな体に大きな目的を背負い、がんばっているキャラクター

たち。その向こうにある「思い」に共感し、お気に入りのキャラクターを見つけて、バイエルホームページ上で開催される「キャラクター選手権」にも投票してほしい。

More than just promotional characters, our mascots embody the ways that we must contribute to the betterment of society through our products and services.

さあ、どんなキャラクターたちが登場するのか?! 一挙に紹介していこう!

So, who are our mascots? Here's the lineup!



CRくん

- 年齢：16歳
- 性別：男性
- 出身：滋賀工場
- 特徴・ミッション

「アダラートCR錠」の有核二層錠構造が由来。錠剤の構造が一目で分かるボディをしている。製剤の優れた設計と滋賀工場のハイテクノロジーを、その抜群のプロポーションによってみんなに知ってもらおうのがミッション。いちご大福が大好物。

いしかわくん

- 年齢：40歳
- 性別：男性
- 出身：バイエル薬品
- 特徴・ミッション

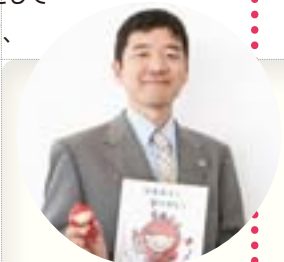
Webを担当している社員がモデル。医療関係者の方を対象に最新の造影検査やおすすめコンテンツなどを紹介し、画像診断の技術向上に貢献する、という重大な使命を担っている。焼き鳥の聖地、大阪・石橋駅周辺によく出没。



かた丸くん

- 年齢：秘密でござる
- 性別：男子
- 出身：滋賀工場
- 特徴・ミッション

血友病の子どもたちは、生まれたときから病気と共存し、生涯にわたり注射を続けなければなりません。物心がついてくると「どうしてほくだけ注射をしなくちゃいけないの?」と疑問を持ち始めます。そんなときに病気のことを知ってもらう「インフォームド・コンセント」が大切との考え方から、かた丸くんは絵本のキャラクターとして誕生しました。注射を打つ場面になると現れて、忍法「血止めの術」で血を止めたり、病気の特徴や薬の役割を忍者言葉で説明してくれます。Webやスマホからも呼べばいつだって甲賀から駆け付けて、子どもたちがリラックスできるように励まずでござるよ。



腫瘍・血液領域事業部
コージネットマーケティング
後藤雅也氏

こごパグ君

- 年齢：永遠の1歳
- 性別：男の子
- 好きな食べ物：
鈴木精肉店のチャーシュー
- 特徴・ミッション



“未来の飼い主”である子どもたちの動物を大切に作る心を育てるワンコ。動物愛護の精神を育む「ここはぐプロジェクト」の案内役を務める。子どもたちと遊ぶのが大好きで、特技は手を使わずにズボン履くこと。「ここはぐイベント」では着ぐるみで活躍中。

しっかり確認、素早く投票! オリジナルグッズが抽選で当たるよ!

キャラクター選手権にご参加いただいた方には抽選でバイエル・キャラクター・プレミアムグッズのプレゼントもあります。投票・応募の方法など、詳しい情報は13ページを見てね⇒

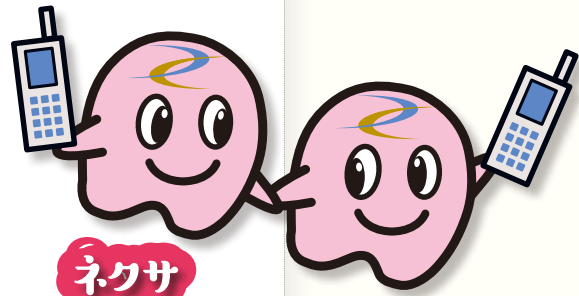




殿・姫

- 年齢：どちらも???
- 性別：殿＝男性 姫＝女性
- 出身：情報サイト「避妊のススメ」
- 特徴・ミッション

殿と姫は新婚ほやほやで、かわいい「ややこ」は欲しいけどしばらくは二人の時間を楽しみたいと思っている。「産みたいときに産むために!」をキャッチフレーズに、「Birth Control」について「避妊のススメ」Webサイトで読者と一緒に学んでいる。モバイルサイトでも活躍中。



ネクサ

- 年齢：5歳
- 性別：不明
- 出身：函館(らしい)
- 特徴・ミッション

肝細胞がんの患者さんと医療機関をつなぐ電話サポートプログラム「ネクサリンク」普及のために登場した。患者さんの願い(ネがい)と暮らし(クラし)を支える(サさえる)が名前の由来。電話機のまわりや電波の届くところと手をつなぐのが大好き。

ネリーちゃん

- 年齢：6歳くらい
- 性別：妖精の女の子
- 出身：Kingdom of Dermatology
- 特徴・ミッション

お肌に良いものと清潔を保てるお風呂が大好きで、ステロイド外用剤の塗り方を分かりやすく説明してくれる妖精。ステロイド外用剤が怖い薬ではないこと、正しい塗り方で治療効果が期待できることを、全国の子どもたちや親御さんに伝えている。



ビレちゃん

- 年齢：誕生してから150年以上
- 性別：外見は12歳の女の子
- 出身：情報サイト「バイエルヘルスビレッジ」
- 特徴・ミッション

バイエル薬品医療関係者向けサイトのリニューアルで生まれた妖精「ビレちゃん」です。日々さまざまな研究を重ね、森や小川、清らかな空気や空から、健康のもととなる魔法(薬)を生み出しています。健康を根元から支える樹木に宿り、人々の健康を願い、人々の健康をそっと支えている存在、それがビレちゃんなのです。医療関係者向け、一般・患者さん向けの両サイトのガイド役として登場したり、携帯端末アプリのナビゲーション役としても活躍しています。普段は白衣ですが、季節によっていろんな洋服・和服を着こなすオシャレさんです。



事業統轄本部
チャンネルミックスマネジメント
加藤維佐子氏



フィリアちゃん

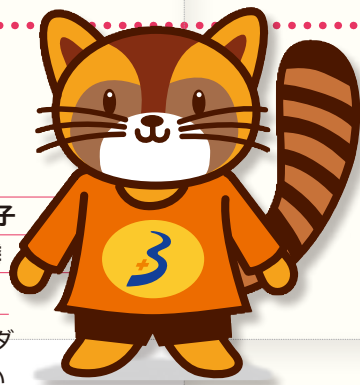
- 年齢：天使は年を取らないの♡
- 性別：女性
- 出身：ギリシャ
- 特徴・ミッション

Hemophilia(血友病)のPhilia(友愛)に由来する天使。「P」のアンテナを張りめぐらせて情報収集したり、患者さんを察知する。血友病の適切な情報を届けるのが役目で、患者さんやナースが困っているところに登場。好きな食べ物はスコーン。

ベタッパ

- 年齢：???
- 性別：生粋の日本男子
- 出身：MS患者さんの隣
- 特徴・ミッション

タヌキでもレッサーパンダでもありません。手洗いが大好きなアライグマ。自分の姿を見せることで、患者さんに注射前の手洗いを思い出してもらっている。多発性硬化症患者さんと友達になりたい、いつも思っている。和食を好むらしい。



まもる君

- 年齢：3歳(羊年)
- 性別：男の子
- 出身：林檎園
- 特徴・ミッション

ネクサバールの主な有害事象である「手足皮膚反応」を患者さんが自己管理するiPhoneアプリ開発に合わせて登場。羊の毛で柔らかく守り、ボクサーのガードのように固く守るのが特徴。今はチラシのみの登場で、アプリ本体に入れてもらうのが目標。



ミカタくん

- 性別：男の子
- 出身：月の近くにあるミカタ星
- 好きな食べ物：月見うどん
- 特徴・ミッション

毎月やってくる生理痛、女性の敵「痛い!ツライ!」を、あなたと一緒にやっつける心強いヒーロー「ミカタくん」。月経時の痛みなどによって日常生活に支障をきたす「月経困難症」や新たに「過多月経」の啓発という役割も担い、Webサイト「生理のミカタ」のキャラクターとして活躍中です。ミカタくんが動画に登場する「CM動画コンテンツ」は必見。また、服用者の資料にも登場し、患者さんの癒やしに貢献しています。「生理に関するカラダやココロの不調に、一人で悩まないでパートナードクターを見つけてね」…ミカタくんから女性の皆さんへのメッセージです。



ウイメンズヘルス&エスタブリッシュトプロダクツ事業部
ウイメンズヘルスマーケティング
西井かおる氏

ミノルちゃん

- 性別：女の子
- 出身：安全星
- 好きな食べ物：イチゴのスムージー
- 特徴・ミッション

11月9日の「ファーマコビジランス(医薬品安全性監視)の日」に合わせて誕生したフクロウの女の子。目力が強く、薬の安全を日々見張っている。バイエル製品の安全確保の重要性を社員にもっと身近に感じてもらい、薬害防止のシンボルになるのが夢。



キャラクター選手権、投票方法のご紹介!

キャラクター選手権の専用投票フォームを準備しました。Harmony onlineページのバナーをクリックして、どんどん投票しよう。
バイエル・キャラクターたちのプレミアムグッズも抽選で当たるよ! <投票締切:2015年1月31日(土)>

プレゼント内容

- ・かた丸くんソープホルダー&フィリアちゃんシール：10名
- ・かた丸くん、ストレスリリサー&カレンダー：10名
- ・ビレちゃんスマホスタンド：10名
- ・ミカタくん、ストラップやA4クリアファイルなどの5点セット：10名

- ・ここバグ君アニマルエコバッグ：5名
- ・ビレちゃんポストイト：10名

※プレゼントの当選発表は、発送をもってかえさせていただきます。
※プレゼント内容は予告なく変更する場合があります。
あらかじめご了承ください。

↓↓↓アクセスはこちらから↓↓↓

<http://www.bayer.jp/harmony/>

バイエル 和Harmony

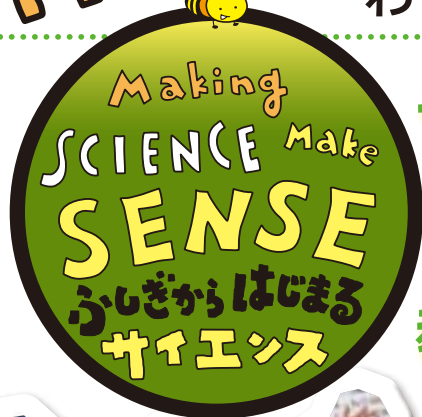
検索

ハガキ・FAXでも受付中!

キャラクターの投票とその理由、会社名、住所、氏名、電話を明記の上、ご応募ください。宛先は19ページ・PRESENT欄をご覧ください。



わくわく実験びっくり箱2014



子どもたちにとって 身近なものを使った理科実験。 楽しい雰囲気の中で、 教室内は笑顔と歓声に包まれた。

Science experiments using everyday items familiar to children fill classrooms with smiles and cheers

子どもたちに科学の面白さを伝える活動としてスタートした“ふしぎからはじまるサイエンス”「わくわく実験びっくり箱」。今年も、実験を通して「なぜ」「どうして」という、子どもたちの科学的好奇心を高め、科学の楽しさの体験と理解力の向上を目的として、宮崎県、熊本県、岩手県の小学校を訪問、実験教室を開講した。

This year, Making Science Make Sense (MSMS), Bayer in Japan's program for introducing children to the thrills of science, has once again perked kids' curiosity for the how and why of things and enhanced their scientific literacy by hosting exciting experiment-based lessons at elementary schools in Miyazaki, Kumamoto, and Iwate.

ふしぎからはじまるサイエンス「わくわく実験びっくり箱」とは

小学生を対象に、科学の発見や面白さを伝える体験・質問型の理科実験教室で、バイエルの社会貢献プログラムのひとつ。2003年から毎年、社員が講師やサポートスタッフとして全国の小学校を訪問する活動である。

八幡平市立寄木小学校・校長

小澤真由美先生



子どもたちの科学的好奇心や理解を深める、良いきっかけになりました。

理科の実験はもともと好きな子どもたちですが「わくわく実験びっくり箱2014」に参加させていただき、今日は特に目の輝きが違っていました。普段の授業では担当教師だけで準備する

ことが難しい実験器具などが一人ひとりにあり、全員参加型で実験できたことがとても良かったです。牡蠣やホタテといった地元のものを使った実験などもあり「何が起るの?」という期待や「これが化学反応っていうんだ!」などを実際に体感できたことで、科学をより身近に感じられたのではないのでしょうか。実験に使った塩酸など、取り扱いに気を使う薬剤もバイエルのサポートスタッフの方々が、子どもたちが安全に扱えるよう気を配っていただき、その点も安心して見ていられました。

また、今の本校の環境では、実験に限らず教科書以外のことに

チャレンジできるチャンスはあまりありません。その意味では、コミュニケーション能力の向上を目標としている中で、なかなか出会うことがない他府県の人たちと触れ合うことができるのも子どもたちにはいい刺激になったと思います。

こうした活動を求めている学校は、まだまだたくさんあるはずなので、これからも活動を続けていただくことを希望します。そして最後にもお願いになりますが、もう少し子どもたちに考える時間をもらえるカリキュラムを実践していただけると、より一層考える力を伸ばすことができるのではないかと感じました。

“By enabling all our students to engage in hands-on experiments using local products such as oysters and scallops, the MSMS visit gave them a more palpable sense of the wonders of science—as the sparkle in their eyes showed. I hope this program will continue to be made available to many other schools.”





6月26日 宮崎県・宮崎市立大久保小学校



『化学反応で電気が起きる 仕組みを学ぶ』

備長炭電池の予想外の
パワーを体感できた⇒

6年生28名を対象に、電気が起きる仕組みを学ぶ実験教室が開催された。イタリアの物理学者ボルタが1800年に発明した最初の電池の再現やフルーツ発電、備長炭電池の実験をし、地球にやさしいクリーンな燃料電池とその仕組みについて学んだ。



中嶋智美

バイエルクロップサイエンス株式会社
東京営業所

初の女性講師として参加した中嶋氏。「好奇心いっぱい元気な子どもたちに助けられ、自分も楽しんで実験ができました。知らなかったことを体験できた子どもたちの目の輝きは忘れられません」。今後は同僚にも勧めたいと話す。

6月27日 熊本県・熊本市立慶徳小学校



『ポン菓子作りでわかる！ 空気と水の不思議』

ポン菓子作りでは、
その威力に歓声があがる⇒

5・6年生37名を対象に、圧力と温度によって状態が変わる空気と水の不思議を学ぶ実験教室。熱した空き缶を急激に冷やすと缶がつぶれる現象や、圧力のかけ方で大きさが変化するマシュマロの様子を観察。熊本県産の米「森のくまさん」を使ったポン菓子の実験では、空気の圧力で膨らんだお米を観察、試食をした。



片村広一

住化バイエルウレタン株式会社
ポリウレタン事業部

参加して10年になる片村氏。「最初に出会った小学生はすでに21~22歳。社会や大学で経験を活かしてくれていると嬉しいです」と語る。今回はとても暑い日だったが、時間通りに無事終了し、記憶に残る1日となった。

7月2日 岩手県・八幡平市立寄木小学校



『炭酸ガス風船で学ぶ 二酸化炭素と貝殻の秘密』

二酸化炭素は空気より
重いことが体感できた⇒

5・6年生27名を対象に、二酸化炭素をテーマにその性質を学ぶ実験教室を開催。岩手県産の牡蠣やホタテを使用した実験では、粉末状の貝殻に塩酸をかけると二酸化炭素が発生する様子を観察した。また、二酸化炭素の水に溶けやすい性質や、空気より重い性質を、風船やペットボトルを用いて視覚的に学んだ。



湯浅 敦

バイエル薬品株式会社
滋賀工場

子どもたちの笑顔が見たいと思い、講師を始めた湯浅氏。今では参加しないと自分の夏は来ない！というほどの熱の入りのよう。地元でもボランティア活動で理科の実験教室の講師を務めるなど幅広く活躍するベテラン講師。



おじいちゃん、おばあちゃんと目のふしぎについて学ぶ

小学生の夏休み自由研究向け教室を開催!

Summer vacation learning project for kids: Exploring the wonders of the eyes with grandpa and grandma!



見たい!



知りたい!

目のかがく教室



8月8日、バイエル薬品は小学生とその祖父母がクイズやゲームなどを通して目のふしぎについて楽しく学ぶ「見たい!知りた!目のかがく教室」を開催。小学生は夏休みの自由研究として、祖父母と一緒に目のふしぎについて楽しく学び、祖父母は孫との学習を通じて、年齢とともに気になる目の病気やチェック方法について理解を深めた。

Bayer Yakuhin held a science school on August 8 for elementary school kids and their grandparents to learn about eyes through games and other fun activities. The lesson included an introduction to diseases that affect vision with age.

小学生21名、祖父母23名の44名が参加。東京女子医科大学 眼科学教室 主任教授 飯田知弘先生が、教材を使ってクイズやゲームを交えながら、子どもたちにも分かりやすく目に関する授業を行った。



飯田知弘先生

1時間目

参加者は、まず「目のふしぎ」をテーマに、ものが見える仕組みや利き目について学び、トリックアートや動物の見え方に関するクイズに挑戦。またアイマスクをつけてまっくらな世界で視覚以外の感覚を味わう「歩く」「触る」「匂いを嗅ぐ」というアトラクションでは、視覚を奪われることによる不自由さから「情報の80%は視覚から得ている」ことを実感した。



利き目を調べる女の子と祖母



祖母にメッセージカードを渡す男の子

体験談を語る患者さん

2時間目

近年子どもたちに増えている近視の仕組みや、メガネとレンズの仕組み、年をとるとなりやすい目の病気などについて「視力をまもろう」をテーマに学習。祖父母世代に増えているとされる加齢黄斑変性について患者さんの話を聞いた。授業の最後には、目の大切さについて学んだ子どもたちが祖父母にアムスラーチャート*付きのメッセージカードを書いて渡し、修了書が授与された。

*アムスラーチャート：片方ずつの目で見て網膜疾患を自己チェックできる格子状のチャート



執行秀昭さん、八千子さん

参加者メッセージ

秀昭さん：最近、孫の近視が気になっていて、今後に活かしたいと思いました。

八千子さん：患者さんの貴重なお話で目の病気を再認識。孫の成長を見守るためにも目の健康に気を付けたいと思います。

優真ちゃん：目の大切さがよく分かりました。一緒に出かけることの少ないおじいちゃんに参加できてうれしかったです。

創志朗くん：クイズで動物や恐竜の見え方が分かって、面白かったです。



優真ちゃん

創志朗くん

8月 August

Aug.

Bayer **MaterialScience**

バイエルの二酸化炭素研究に新たな成功事例
Bayer achieves another success in CO₂ research

Pick Up
01

Aug. 8

Bayer **HealthCare**

バイエル薬品「見たい!知りたい!目のかがく教室」
～おじいちゃん、おばあちゃんと
目のふしぎについて学ぼう～を開催
Bayer Yakuhin holds "Learning about eyes" event

Feature
p.16

Aug. 12

Bayer **HealthCare**

バイエル薬品、自由研究お役立ちイベント
わんこ博士になれる「ここはぐサマースクール」開催
"Cocohagu Summer School" is held

9月 September

Sep. 4

Bayer **HealthCare**

アフリベルセプト硝子体内注射液について、
BRVO患者さんを対象とした第III相臨床試験に基づき、
日本で新たに承認申請
Bayer Yakuhin submits new application for aflibercept solution
for injection into the eye in Japan based on phase 3 data in
patients with BRVO

Sep. 9 – Oct. 31

Bayer **HealthCare**

解熱鎮痛薬「バイエルアスピリン」Webキャンペーン
「頭痛に効く・聴く名曲クラシックグランプリ」開催
Bayer Aspirin website campaign "Hear & Heal: Grand Prix of
Headache-relieving Classical Music" is held

Sep. 18

Bayer **HealthCare**

バイエル薬品、オープンイノベーションセンターの
ウェブサイト開設
"Open Innovation Center Japan" website is launched

Sep. 18

Bayer **International**

バイエル、ライフサイエンス事業への注力を発表
Bayer announces its intention to focus on life sciences

Pick Up
02

Sep. 19

Bayer **HealthCare**

眼科用VEGF阻害剤「アイリーア®」について
病的近視における脈絡膜新生血管(mCNV)の
適応追加承認を取得
Intravitreal VEGF inhibitor "EYLEA" obtains additional indication
of myopic choroidal neovascularization (mCNV)

10月 October

Oct.

Bayer **CropScience**

農業希釈計算アプリ「農業希釈くん」、
1万ダウンロード達成!
Agrochemical dilution calculating app surpasses 10,000
downloads

Pick Up
03

Oct. 1

Bayer **International**

バイエル、米国メルク社コンシューマーケア事業の取得を
142億USドルで完了
Bayer closes acquisition of consumer care business of Merck &
Co., Inc., United States, for USD 14.2 billion

Oct. 12 – 13

Bayer **HealthCare**

バイエル薬品「世界血栓症デー」に羽田空港で
静脈血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)啓発イベント開催
Bayer Yakuhin holds disease awareness event at Haneda
airport on "World thrombosis day"

Oct. 16

Bayer **in Japan**

ドイツ・バイエル社経営委員のケーニヒ氏、
マリック氏が来日
バイエル、東京で記者会見を開催
日本のバイエル、2017年の目標および京都大学との提携を発表
Bayer Board of Management members Michael Koenig and
Kemal Malik visit Japan
Bayer Press Conference in Tokyo:
Top Management Unveils Bayer in Japan's Goals towards 2017
and Collaboration with Kyoto University

Pick Up
04

Oct. 17

Bayer **HealthCare**

バイエル薬品、更年期のミドルエイジの
女性のためのウェブサイト「更年期のこころえ」オープン
"Konenki no kokoroe" website is launched to support women
to prepare for menopause

PEOPLE

- ・バイエル薬品株式会社
(2014年7月31日)
取締役 退任
アンドレアス・フィビヒ
- (2014年8月1日)
取締役 就任
ディーター・ヴァイナント

Pick Up
01

Bayer MaterialScience バイエル マテリアルサイエンス株式会社

石油使用量を削減。バイエルの二酸化炭素研究に新たな成功事例

バイエル マテリアルサイエンスは、二酸化炭素をプラスチック製造の新しい原料にする研究において、新たな成功を収めた。実験室試験で、二酸化炭素を使用することによって前駆物質レベルにおける石油使用率をさらに減らすことに成功。高品質ポリウレタンフォーム製造のための主原料として温室効果ガスである二酸化炭素を使う技術は、商業化に向けて進行中で、このポリウレタンフォームに使用される石油の割合は80%。ほかのプラスチックですでに石油の割合を60%に減らすことに成功している。

新しい製造プロセスでは二酸化炭素は2度使われる。まず新種の前駆物質に二酸化炭素

を直接組み込むことで原料となる石油の20%を二酸化炭素が代替。次に、間接的に二酸化炭素を使用することで、石油をさらに20%節約。石油代替原料の比率はすでに40%にのぼる。

さらに、製造できるプラスチックの種類が増加。今では、熱可塑性ポリウレタンやフィルム、注型エラストマーをこの方法で生産することが可能になった。これらプラスチックの用途は幅広く、自動車の内装やケーブルシース、スキー靴などのスポーツ用品に採用。この製造プロセスは原理的に有効であることが研究者によって実験室で証明されている。

二酸化炭素の将来の用途について、先駆者として自負するバイエル マテリアルサイエンス。すでに

進行中の「ドリームプロダクション」プロジェクトの一環として、まずは2016年以降にドルマーゲン工場に二酸化炭素を原料とした軟質ポリウレタンフォーム用原料の製造を目指す。この新素材は、マットレスに使用される予定となっている。

Bayer MaterialScience's Dream Production project has succeeded in using CO₂ to further reduce the percentage of petroleum used in plastic manufacturing, thereby expanding the range of plastics that can be produced with CO₂.

Pick Up
02

Bayer International バイエルグループ

バイエル、完全にライフサイエンス事業に注力することを計画

9月18日、バイエルグループ社長のマライン・デッカーズ氏は「今後は完全にライフサイエンス事業に注力、人と動物、そして作物の健康における世界有数の企業として自社を位置付ける」と発表。昨今、バイエルの重点分野は、医療用医薬品の新製品や、好調に推移している農業関連事業など、ライフサイエンス事業に移ってきた。現在、ライフサイエンス事業はバイエルの総売上の約70%、特別項目計上前EBITDAの88%を占めるまでになっている。

これにより、今後12カ月から18カ月以内に素材化学事業を上場させる計画。「現在、素材化学事業は、近代的で競争力を持つ大規模生産施設を運営し、事業状況も非常に良好。私たちはたとえ厳しい経済環境下においても、これ

らの施設に段階的に投資してきた」とデッカーズ氏は振り返る。その例として挙げたのが、上海の世界規模の生産施設や、12月に正式に移転するドルマーゲン（ドイツ）の新TDI生産施設。2009～13年だけで、バイエルは合計38億ユーロを素材科学事業の不動産や工場およびその設備、研究開発活動に当ててきた。

予定されている分離により、素材科学事業は欧州で第4番目に大きく、プロフォーマ（見積上）売上高は全体で110億ユーロ以上（2013年）の企業となる。新会社は世界で約16,800人（ドイツ国内は6,500人）の社員が所属する、新しい企業名を持つ別会社となり、本社はレバークーゼンに置かれる予定である。

なお、将来バイエルグループに属する企業の

プロフォーマ（見積上）売上高は、約290億ユーロ。社員数は約99,000人（ドイツ国内は29,500人）が見込まれる。バイエルは本業での成長を第一に置く企業であり続けるために、研究開発費用を引き上げ、ヘルスケアおよび農業関連事業間の初期研究を選択的に強化。医療用医薬品の新製品を発売することを今後も推進していく。

Bayer CEO Marijn Dekkers announced on September 18 that Bayer will demerge its MaterialScience unit and focus on becoming a pure life science company, positioning itself as a world leader in the field of human, animal, and plant health.

Pick Up
03

Bayer CropScience バイエル クロップサイエンス株式会社

農薬希釈計算アプリ「農薬希釈くん」1万ダウンロード達成!

1月にバイエル クロップサイエンス株式会社からリリースされたiOS、Android向け農薬希釈計算アプリ「農薬希釈くん」がリリース以来、毎月順調に1,000ダウンロードを重ね、ついに1万ダウンロードを達成した。

高齢化が進む農業界において、スマートフォンアプリが果たして浸透するかという心配をよそに、大きな成功を収めることができた。現役

世代はもちろん、次世代の農業を担う若者、2代目農家の皆さんにも広く受け入れられた結果であると考えられる。

現在、大きな変革期を迎えようとしている日本農業の中で、一層の効率化を見据えITを活用した取り組みも増加。バイエル クロップサイエンスでは、今後も積極的に新たな取り組みを行っていく。



今まで難しかった薬量、散布量を求める計算が簡単に行えるアプリ

Noyaku-kishaku-kun, a smartphone app from Bayer CropScience that helps farmers calculate the dilution rates of crop protection products has been downloaded more than 10,000 times.

ドイツ・バイエル社経営委員のケーニヒ氏、マリック氏が来日 バイエル、東京で記者会見を開催 日本のバイエル、2017年の目標および京都大学との提携を発表

10月16日、ドイツ・バイエル社経営委員のミヒャエル・ケーニヒ氏(アジア太平洋地域担当)、ケマル・マリック氏(イノベーション担当)の来日に合わせ東京で記者会見を実施。約60名の記者を前にバイエルのトピックを紹介した。

まずケーニヒ氏が米国メルク社のコンシューマーケア事業の買収と素材科学事業グループの分離・独立について紹介。そして2017年までに約3,000億円の売上高を目指すという、日本のバイエルの成長戦略を発表した。続いてマリック氏が最新のイノベーションを説明。ライフサイエンス企業に大きく舵を切ったバイエルを記者に強く印象付けた。

さらに6月に発足したオープンイノベーションセンターの概要と、京都大学産官学連携本部

との提携を発表。大学側から会見に同席した阿曾沼慎司氏、小寺秀俊氏が提携の意義について説明した。会見後に日本バイエル代表のハウスナー氏は「今回設定した新しい売上目標を達成するためにも、社員が一丸となって成長戦略を実行していくことが必要です」と述べた。

10月15日、マリック氏が京大を訪問

マリック氏、バイエル薬品社長のカーステン・ブルン氏、オープンイノベーションセンター関係者が京都大学を訪問した。産官学連携本部では、マリック氏がバイエルのイノベーションを、阿曾沼氏が京都大学の産官学連携活動について説明。その後、iPS細胞研究所を訪問し、同ラボを見学した。



(左から) 京都大学 工学研究科教授 [(前)理事・副学長・産官学連携本部 本部長] 小寺 秀俊氏、ケマル・マリック氏、ミヒャエル・ケーニヒ氏、京都大学 理事・産官学連携本部本部長 阿曾沼 慎嗣氏、ハンスディーター・ハウスナー氏

Bayer AG Board of Management members Michael Koenig and Kemal Malik presented recent Bayer news and innovations, and the growth strategy for Japan under the new focus on life sciences.

New Products

Sep. 8

バイエル薬品株式会社 動物用医薬品「アニゲン® PRRSエライザ4.0」

「アニゲン® PRRSエライザ4.0」は、エライザ法による豚群の血清中の豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスに対する抗体検出を目的とした動物用医薬品で、マイクロプレート上の各ウェルには、独自に開発した遺伝子組み換えタンパクが吸着。1マイクロプレートあたり92検体(1キット最大460検体)を測定可能。優れた感度と特異度を有する本製品は、北米型、欧州型など広範囲なウイルス株に対する抗体が検出できる。



PRESENT

疲れ目を癒やすe-kairoの「USBアイウォーマー」を3名様にプレゼント!

正解者の中から、e-kairoの「USBアイウォーマー」を3名様にプレゼントします。クイズの答えとともに希望する色(ピンク、ネイビー、ターコイズ)、会社名、住所、電話番号、『和Harmony』の感想を明記の上、ハガキまたはFAXでご応募ください。(締め切り12月31日)
当選発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

○にあてはまる言葉(カタカナ)を埋めてください。

○ー○ン○ノ○ベーション○ンター

宛先

〒100-8268 東京都千代田区丸の内1-6-5
バイエル ホールディング株式会社
広報本部「和・Harmonyプレゼント係」
FAX 03-5219-9705

◆10~13ページ「キャラクター選手権」の投票 & プレゼントの宛先も上記 になります。(2015年1月31日必着)
個人情報(氏名、住所、電話番号)は当社によるプレゼントの発送の目的以外には利用いたしません。
前回のクイズの回答は「ワーク・ライフ・バランス」でした。たくさんのご応募ありがとうございました。



疲れ目を
ゆっくりと癒やす
「USBアイウォーマー」

No. 92/2014年11月

- 発行人/バイエル ホールディング株式会社 広報本部 松井繁幸
- 編集デスク/松本陽一、小原葉子
- 編集委員/増田玲子 (BYL)、荻上敬子 (BCS)、梅澤千絵 (BMS)
- 所在地/〒100-8268 東京都千代田区丸の内1-6-5
バイエル ホールディング株式会社 広報本部
- TEL/03-6266-7255
- FAX/03-5219-9705
- URL/http://www.bayer.co.jp
- 制作/ウィズワークス株式会社
- 創刊/1986年1月
- お願い/転載転写ご希望の際は、必ず発行者までご連絡ください。

日本のバイエル

バイエル ホールディング株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8268
Tel. 03-6266-7010

Bayer Holding Ltd.

1-6-5 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8268
Tel. 03-6266-7010

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
Tel. 06-6133-7000

Bayer Yakuhin, Ltd.

2-4-9 Umeda, Kita-ku, Osaka 530-0001
Tel. 06-6133-7000

日本メドラッド株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
Tel. 06-6133-6250

Nihon Medrad K.K.

2-4-9 Umeda, Kita-ku, Osaka 530-0001
Tel. 06-6133-6250

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
Tel. 03-6266-7007

Bayer CropScience K.K.

1-6-5 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8262
Tel. 03-6266-7007

バイエル マテリアルサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8211
Tel. 03-6266-7260

Bayer MaterialScience Ltd.

1-6-5 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8211
Tel. 03-6266-7260

住化バイエルウレタン株式会社

兵庫県尼崎市久々知3-13-26 〒661-0977
Tel. 06-6497-2300

Sumika Bayer Urethane Co., Ltd.

3-13-26 Kukuchi, Amagasaki, Hyogo 661-0977
Tel. 06-6497-2300

ディーアイシー バイエル ポリマー株式会社

東京都中央区京橋2-8-5 〒104-0031
Tel. 03-3562-1023

DIC Bayer Polymer Ltd.

2-8-5 Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031
Tel. 03-3562-1023



この印刷物は、FSC® 認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPIにより製版しています。

和
Harmony

